

2021 年度 10 月版

伊豆味校の教育

「We love 伊豆味校」

Find Good Features !



本部町立伊豆味小中学校

〒905-0221 沖縄県本部町立伊豆味 13 番地

Tel 0980-47-2207 Fax 0980-47-6418

Email izumi syochu@edu.town.motobu.okinawa.jp



令和3年度 本部町立伊豆味小・中学校グランドデザイン



国・県の方針

- 生きる力の育成
- 創造性・国際性に富む人材の育成と生涯学習の振興

国頭教育の目標

「人材を以て資源と為す」
教育活動の推進

めざす学校像

1. ぬくもりのある学校(温かさ)
2. うるおいのある学校(自然・環境)
3. 躍動のある学校(変化への対応)

【学校経営理念】

地域に根ざし、小規模校のよさを活かし笑顔あふれる
チーム伊豆味校。子どもや教職員のよさや可能性を引き出し、協働で希望や志のもてる学校を創る。

学校教育目標

気づき、考え、行動そして成長できる子どもの育成

- ★進んで学習する子 (知)
- ★素直で明るい子 (徳)
- ★じょうぶでたくましい子 (体)

本部町教育の最重点(武本部)

1. 確かな学力の向上(対話的深い学び、読む力の育成)
2. 豊かな人間性の育成
3. 自立心の向上(キャリア教育)
4. 保幼小の連携

本校の主な実態

- 良い面**・学習に前向きな子どもが多い
・素直でまじめな生徒が多い(勤務・時間)
・先輩後輩の間にいたわりや敬いの心あり
- 課題**・主体的な活動が弱い
・意見は言えるが伝え方の工夫が弱い
・主体的に考えることが希薄
・自主的なあいさつ
・粘り強さ、たくましさ欠ける

めざす児童生徒像

- ☆めあてもって解決の方法を考え(気づき)、主体的に学びやり抜く児童生徒
- ☆自他の良さに気づき前向きに物事を捉え、その場にあった言葉使いや行動する児童生徒
- ☆夢や希望をいだきあきらめない心を持ち、自ら体を鍛える児童生徒

めざす教師像

1. 心身ともに健康な教師
2. 子どもの良さに気づき引き出し、小さな変容を大切にする教師
3. 使命感をもち指導力の向上に努め学び続ける教師
4. 協働で温かい職場づくりに努める教師
5. 保護者や地域から信頼される教師

校内研修テーマ

★主体的に他者と関わり、自ら学びを広げていく児童生徒の育成

めざす児童生徒像：○自ら考え、きき(聴・訊)合い、判断し、表現(口頭、書く)できる児童生徒
○他の考えを受け入れ、比較、再検討、再構築し深化しようとする児童生徒
授業の視点：○めあて・考える場・まとめ・口頭振り返り(めあて・理解・疑問・よさ・学習用語)

重点目標・具体的取り組み

学力の向上

1. 授業改善・授業マネジメントの徹底(校内研修)に努める。
→口頭振り返りの徹底・ICT活用推進
2. 個に応じた指導の工夫
3. 言語活動を重視した思考力・判断力・表現力を育成する場面、きき合い、伝え合う授業の工夫改善。
授業における音読の推進。読解力向上
4. 学級経営の充実・支持的風土のある学級づくりの推進 良いと探し
5. 生徒指導の三機能を意識した授業の構築や教育相談の充実を図り、生徒理解に努める。※三機能とは、自己存在感、共感的人間関係、自己決定

豊かな心、思いやりと思考力を育む活動の推進(豊かな心の育成)

1. 読書活動を推進し思考力、読解力の向上を図る。
2. 自己肯定感を高める指導の工夫を図る。
3. 教育支援体制の構築を図る。
4. 行事等の体験学習を意義あるものにするための工夫改善を図り、豊かな心を育成する。
5. 道徳科の時間を要として、学校の教育活動全体を通じて道徳教育の推進を図る。

目標をもち生き生きと学ぶ(豊かな心の育成)

1. 「伝える力」の推進に努める。
2. 目標をもつ場・振り返る場の設定に努める。(目標の意識化)
3. キャリア教育を推進し夢や希望を育む取組を行う。
4. 主体性のある児童生徒会活動の活性化を図る

基本的生活習慣の確立とたくましい生徒の育成(健やかな体の育成)

1. 主体的な朝の活動の推進に努める。
2. 積極的な「明るいあいさつ」の推進を図る。
3. 基本的生活習慣の確立を図る。
4. 部活動の活性化や児童の運動能力の向上を図り、体力の増進に努める。
5. 健康・安全な生活態度を育成する。(心の健康)

信頼される学校づくり

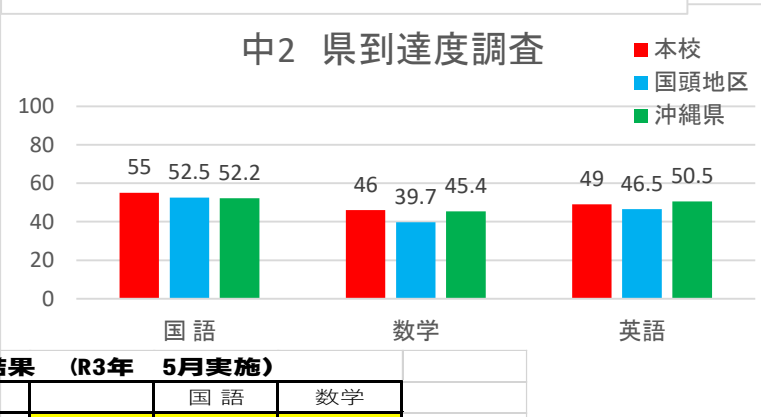
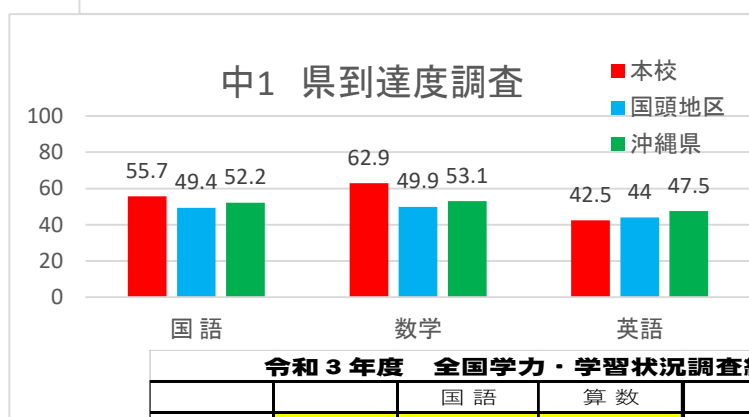
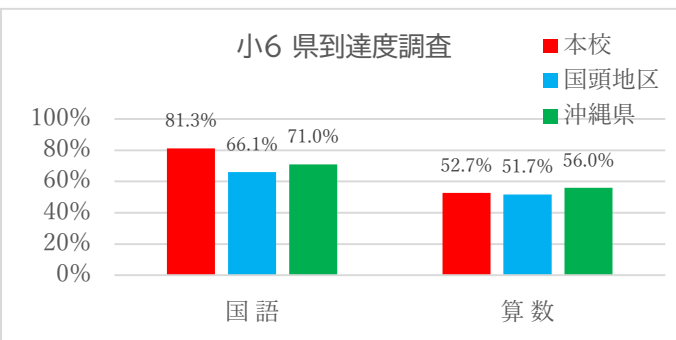
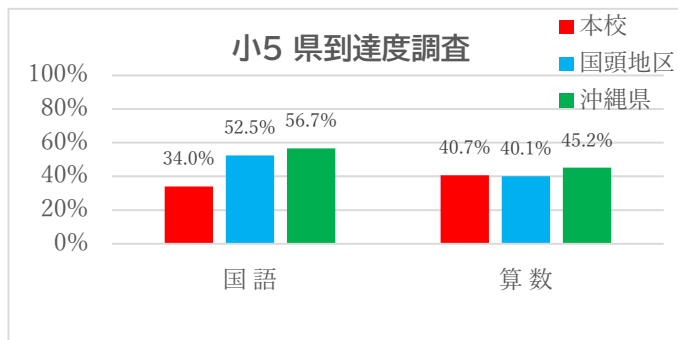
☆保護者・地域とのつながりを大切にした教育実践、信頼される学校づくりの推進

1. 保護者・地域との情報連携(各種便りの定期的発行)
2. 学校組織体制の工夫と推進(報連相の徹底)
3. 小中連携の推進
4. 説明責任(学校説明、授業参観等)
5. 授業力の向上
6. PTA活動の工夫

出会い (4, 5月)	挑む (6, 7, 8月)	団結・感動 (9, 10月)	充実・成長 (11, 12月)	感謝・希望 (1, 2, 3月)
◆入学式 ◆家庭訪問 ◆学校説明会 ◆新入生歓迎会 ◆春の遠足 ◆PTA作業 ◆中間テスト ◆運動会 ◆全国学テ ◆生徒総会	◆地区夏季総体 ◆町計画学校訪問 ◆期末テスト ◆職場体験学習② ◆町児童大会 ◆三者面談 ◆終業式 ◆県総体 ◆始業式	◆地区駅伝 ◆PTA作業 ◆中3学力検査 ◆お話意見発表大会 ◆地区陸上 ◆宿泊学習④ ◆久志駅伝	◆学習発表会 ◆期末テスト ◆地区中文祭 ◆地区新人大会 ◆修学旅行 ◆生徒会長選挙 ◆終業式	◆始業式 ◆児童会選挙 ◆校内持久走駅伝 ◆学年末テスト④ ◆県学力到達度調査 ◆卒業生を送る会 ◆PTA作業 ◆高校入試 ◆卒業式 ◆修了式・離任式

伊豆味校の課題と対応(R3 年5月当初) ベクトルを揃える！					
	課題項目	主な内容	状況	対策	備考
1	あいさつ (小中部会での聞き取り)	積極的な明るいあいさつの推進	朝のあいさつなど消極的で、自主的に明るいあいさつができる子どもが少ない。元気がほしい	◆生徒会テーマを活かし、自治意識の高揚を図る。◆テーマの横幕の作成と掲示 ◇主体的な朝の挨拶運動や委員会活動の強化 ◇挨拶スタンダードなどの指導指標の作成	児童会と生徒会との連携強化。考えさせる。 ☆児童生徒会の意識的なテーマの活用と推進
2	自治活動	主体的な自治活動の推進 教計 p 31	受け身的な活動 小中連携に課題 主体的に課題に気づき、考え、行動することが弱い。	◇委員会活動は毎月力を入れるのではなく、学期に1度など強化する月間を決め徹底して取り組む。◇運動会などの行事を生かす。 ◇児童生徒会主体の取組強化 ◆各行事の意義を高める工夫改善	児童会と生徒会の合同取組の実施。 同じ子どもが複数の役割を担うことが多い。
3	読書活動	積極的な読書活動の推進 教計 p 30,31	昨年度、貸出冊数が一人当たり県平均を各学年上回っている。活動の意識が希薄 一斉読書ではよく読んでいる	◇朝の読書の徹底(安易なカットしない) ◇各教科での図書室利用の推進 ◇ビブリオバトルなど校内研と絡め実施 ◇司書連携の取組	学校の一時徹底を見直し、決めた事に対し、全職員が徹底して取り組みめるようにする。校内研修との連携。
4	キャリア教育の推進	進路指導などとの兼ね合いと将来への展望 教計 p 30	目標はあるが実現のための実行力のある取組が弱い	目的意識の醸成 ◇各児童生徒の夢や学期等の目標設定と教師による計画的な指導の推進 ◇目標等の掲示	キャリアパスポートに繋げる。 自己指導力の育成
5	校内研修	テーマ「主体的に他者と関わり、自ら学びを広げていく児童生徒の育成」情報端末の活用 教計 p 267	具体的取り組み内容が焦点化されず網羅的である。どこに力を入れるか分りづらい。	◇具体的内容をテーマに沿って焦点化する。 授業改善をはじめ、将来を見据え可能な限り全教育活動に繋がる取組内容とするよう努める。	情報端末の活用推進は必須とするが研修の主ではなく、指導方法の一環と捉える。
6	読解力	本部町の課題でもある。 校内研修 教計 p 30,35	特に目立った取組は見当たらない	◇校内研テーマの下、共通取組事項を設けて全教育活動を通じて取り組めるように再度検討する。◇NIEの活用	・研究主任は検討する。5月始めに案を提示する。 ・一つのテーマで教育活動を繋ぐ
7	個に応じた指導	校内研修 教計 p 35	配慮の必要な子供の共通確認中	◇困り感のある児童生徒一覧表の作成と共通理解 ◇9年間を見通した学び方(系統)の作成 教計 p 41	
8	生徒理解	困り感のある子どもの対応	定期的な情報の共有	◇定期的情報共有の場の設定	
9	安心安全	交通安全、ハブ対策	登校時の校門前での降車ハブが出没する箇所と出没しやすい環境	◆PTA との連携と理解 ◆公文による呼びかけ ◆生徒会の活用(チラシ配り)	日々の校内巡視の継続 ◆登校時の校門前での子ども降車の見直し
10	マネジメント 学校組織の活性化 教計 p 41	学校経営に基づいた教育活動の推進 授業におけるマネジメントサイクルの推進(時間内でめあて～振り返りまでの徹底した取り組み)	学校課題に対する意識と取組が弱い。 運営委員会を通じた連携が弱い →管理職に事後承諾	◇学校経営ビジョンは課題を明確に意識したものとする。 ◇経営ビジョンのもと、全職員が意識し取り組めるよう定期的な確認の場の設定と公表。 ◇取組事項等は運営委員会を確実に通す。 ◇運営委員会メンバー追加検討 ◇定期の伝える場の設定	教頭、教務は全職員へ連絡連携を密にする。 各主任に役割意識と課題意識の高揚を図る。 教職員評価との連携。

		国語	算数			国語	数学	英語
(現6年)	本校	★34.0%	★40.7%	(現中2)	本校	55.7	62.9	★42.5
	国頭地区	52.5%	40.1%		国頭地区	49.4	49.9	44.0
	沖縄県	56.7%	45.2%		沖縄県	52.2	53.1	47.5
(現中1)	本校	81.3%	★52.7%	(現中3)	本校	55	46	★49.0
	国頭地区	66.1%	51.7%		国頭地区	52.5	39.7	46.5
	沖縄県	71.0%	56.0%		沖縄県	52.2	45.4	50.5



令和 3 年度 全国学力・学習状況調査結果 (R3年 5月実施)											
		国語		算数				国語		数学	
(小 3 名)	本校	★ 60		★ 60		(中 5 名)	本校	63		55	
	沖縄県	65.0		69.0			沖縄県	60		52	
	全国	64.7		70.2			全国	64.6		57.2	
		★県平均より下									

全国学テ小6年

80

60

65.0

64.7

60

69.0

70.2

40

20

0

国語

算数

■ 本校

■ 沖縄県

■ 全国

全国学テ中3年

80

63

60

64.6

55

52

57.2

40

20

0

国語

数学

■ 本校

■ 沖縄県

■ 全国

県到達度調査及び全国学力・学習状況調査の結果から、現中学3年生は英語以外県平均点を越え、良好な結果である。一方、現小学校6年生の国語、算数共に県平均に到達できていない。これは、小6年生の人数が3名と極めて少なく、一人でも当日の検査の点数が振るわなければ全体の平均点に影響が出るためである。

◇小中学校共に、国語において「慣用句の使い方」や「自分の考えを書く」に課題がある。算数においては「既習事項を日常生活の中で活用できる」、数学では、「物事の捉え方、思考の仕方に重点」を置いて今後指導していくことが求められる。

◇小中共に個別に苦手分野を中心に指導していく。

Search

様式Ⅰ 令和3年度 学校経営上の「成果（良さ）」と「最重要課題」とその「対応策」

I. 成果(良い点)

☆学習意欲の高く、学力調査でも県平均を上回っている教科がほとんどである。
☆朝の読書に集中して取り組み、昨年度は各学年ともに年間貸出冊数が県平均冊数を越えている。
☆先輩後輩の児童生徒間に「いたわり」や「うやまう(手本など)」心(絆)がある。
☆子ども達が教職員に対して肯定的に捉えている(信頼度が高い)。
☆作業など与えられた仕事は一生懸命できる。一方、課題等に気づいて自ら動くことは苦手。
☆各集会などでのあいさつする場面で自分の考えや意見が言える児童生徒もいるが、フリーな状態で考えや意見を求められたら返事に窮する場面が多い。

II. 学校経営上の最重要課題

1 支持的風土のある学校づくり

2 伝える力の育成(気づき・考え・行動そして成長できる児童生徒)

その対応策

1 支持的風土のある学校づくり

(1) 児童生徒会活動の活性化(「気づき・考え・行動」できる児童生徒)

- ①お題目にならない生きた生徒会テーマの設定→「進取果敢 ～Be a Challenger!!～」
- ②行事の意義を高める(行事要項の見直し、意義を高める工夫改善)
- ③明るいあいさつ運動の推進
- ④運動会などの主要行事における児童生徒の主体的な活動の推進を図る。

(2) 受容的な生徒指導

- ①生徒指導の三機能(自己存在感・共感的人間関係・自己決定)を生かした授業, 教育相談
- ②児童生徒のよさに気づき, 引き出し, 伸ばす指導。良いところ探しの推進と子どもたちの活動への教師による価値付けに努める。→参考 p7

2 伝える力の育成(気づき・考え・行動そして成長できる児童生徒)

(校内研修テーマ: 主体的に他者と関わり, 自ら学びを広げていく児童生徒の育成)

(1) 授業力向上

- ①「口頭での振り返り」の徹底した授業改善。口頭での振り返りを意識し, 他者との振り返りの交流を図り, 他者の意見を参考にしたり相手目線で伝えることで, 表現方法の工夫を図る。そのことで, 自らの思考を広げ深めることになる。また, 「振り返り」を着実にを行うことで, 「めあて」「まとめ」「振り返り」の一連の流れが着実に行われ, 授業マネジメントに結びつく。さらに, 振り返りを言わせることで, 授業の理解や疑問に思ったことなど児童生徒自身の評価や教師の評価にも繋がる。

② 思考する場面の設定。

課題を自分事と捉え, 主体的に考えることで学びを深める。

(2) 各活動や行事後の振り返り

- ①感想や気づき, 意見を文章にまとめる。そして, 教師による添削や励ましを入れる。さらに, 全児童生徒が見ることができるよう掲示(感想の交流)する。

(3) 儀式やその他の場面での発表

- ①発表原稿を作成し, その内容を覚え原稿を見ないで聴衆を見て発表する。

(4) 読書活動の推進と活性化(読解力、語彙力の向上)

- ①全職員体制での朝の読書活動
- ③ 朝読書時間の確実な確保(安易に日課を変更せず, 読書時間を優先する)
- ④ 読書の啓発に努める(ビブリオバトルや書籍紹介, 児童生徒の読み聞かせなど)。→伝える力

学力の向上

Do



5, 6 年の社会 PC を活用して調べ学習等に生かす 5,28 2 年生の授業風景 学推教師による支援 4,30 4 年の授業 学習生活支援員の支援 10,7



3, 4 年生の国語の口頭の振り返り 6,2 中3国語 PC 活用による漢字の書き順の確認 6,10 中学体育 動画撮影で動き確認 5,28



中学体育 グループに分かれ全員が一斉に口頭の振り返り 5,28

中学数学の口頭での振り返り 6, 14

- 校内研修の研究主題を「主体的に他者と関わり、自ら学びを広げていく児童生徒の育成」の構築のため授業力の向上の推進（校内研修）に努める。テーマに迫るため、特に「振り返り」の設定や「ICT 活用の推進」の確実な実施を重点に取り組んでいる。振り返りでは、児童生徒が互いに口頭で振り返るなど自分の考えを伝え、他者と交流しながら学びを広げていくように努める。
- 授業力向上の実効力を高める互見授業の実施。全教諭が互見授業を行い、職員相互で評価（よい点、課題）し、授業者自身が授業後にレポートを作成する。研究集録にそれを蓄積していく流れで実効力を高めていく。
- ICT 活用の推進では、まずは ICT 機器を使ってみようとの声かけで殆どの授業が活用し始めた。どのような活用が有効かを模索しながら推進していく。
- 学力向上を目指し、町派遣の学推教師の支援は、主に 2 年算国 3 年算 5 年算、必要に応じ放課後である。学習生活支援員は、主に 2 年音、体を中心に算国、3、4 年算国音、必要に応じプラス支援を行う。これら小学生の支援を要する児童へ意図的・計画的に推進していく。
- ◇生徒個々の良さを引き出し、支持的風土のある学校、学級づくりに努められるよう「良いところ探し」等の実効性のある対策の検討を要する。
- ◇各児童生徒の学力状況の把握を行い、個々の児童生徒に応じた計画的な指導に努める。

学習支援（TT 授業）の取り組み

1、ねらい

複数の教師で多面的な視野から児童生徒の実態を捉え、生徒一人一人に細やかな指導を行う。支援を必要とする生徒をサポートし、できる喜びを感じさせ、学習意欲や自己肯定感の向上を図る。

2、方針

- (1) 1 学年の国語・数学・英語、2 学年の数学で行う。
- (2) 常に教師 2 人体制で授業に入れるよう、基本時間割を編成する。時間調整は時間割担当が行い、毎週示す。
- (3) 授業は担当教師が進め、支援する教師は困っている生徒へのサポートにあたる。
- (4) 激励しながら丁寧に指導し、生徒のやる気を引き出す関りをしていく。
- (5) T 1・T 2 の連携を深め、実態をしっかり把握し効果的な指導を実践する。
- (6) 学習内容によっては個別での支援も行う。
- (7) 生徒の実態に合わせて、随時計画を補正し進展させていく。

3、支援方法

- (1) 支援を必要とする生徒を中心に、本時の内容を一緒に行う。
- (2) 既習事項についてどこまで理解できているかを見取り、必要に応じて個別に振り返りを入れる。
- (3) スモールステップで個人の目標（本時のゴール）を定め、基礎基本の確実な定着を図る。
- (4) 生徒の状況を見ながら、随時計画を修正し進展させていく。

4、担当支援時数

教科	氏名	1 年支援	2 年支援
技術・家庭	大城 和義	数（週 4）	
理 科	志良堂 清則		数（週 3）
少人数 2 担任	新垣 希	国（週 4） 数（週 4） 英（週 4）	



豊かな心, 思いやりと思考力を育む



小2 朝の読書活動 5,19



中1 師弟同行の朝の読書活動 9,27



中3 朝の読書活動 読解力の向上をねらいに「本紹介」 9,9

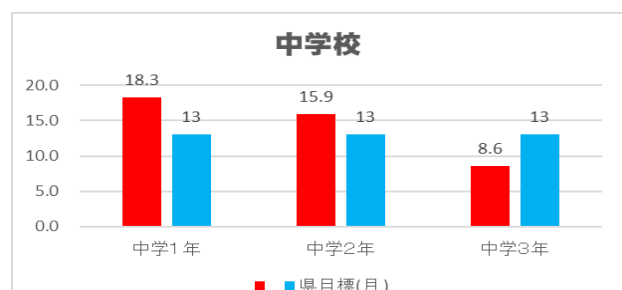
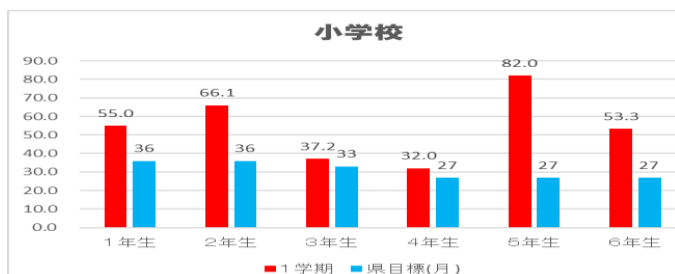


中3による1,2年生への読み聞かせ(学習図書委員会主催)5,31



中1による幼稚園生への読み聞かせ 4,26

月別読書平均冊数 1 学期



「心をつなぐ」

身体が躍動する。元気が湧き上がる。勝利のポーズが揃う。

そして、心がそろう！

元気があれば何でもできる。『先生』『友情・団結・絆 心をつなぐ 燃えあがれ』

「ヤル気みなぎる」

小3,4年生のミニ音楽発表会が音楽室であった。これまで習った歌の発表、楽器の演奏、ちょっぴり緊張の中、始まった発表会。校長先生、教頭先生に見に来て下さい。リコーダの演奏だけでなく、鍵盤ハーモニカでもさせて下さい。みなぎるヤル気がほとばしる。難しい曲にチャレンジ。平和の歌「金のリレー」しっとりいい歌だ。最後はみんなで踊り笑顔で終わる。

「価値語十写真」自己肯定感の向上、行事等の意義を高める取組

- 教育支援体制の組織化を図り、「報連相」の強化に取り組む。
- 読書活動を重点事項として、師弟同行(雰囲気づくり)で生徒も教師も共に朝の読書に励んでいる。2 学期より、読解力向上を意識して「本紹介」に取り組む。
- 一学期の目標読書冊数を達成した人が1,2 年 100%(11/11 名)3 年 50%(3/6 名)4 年 71%(5/7 名)5 年 86%(6/7 名)6 年 67%(2/3 名)。5 月は運動会の取組などで読書冊数に影響がでたとみられる。中学生においてはページ数の多い本に挑戦しているため、目標冊数に届かない場合がある。
- 小学生全体では、達成率 66%(27/41 名)であった。
- 中学1 年 40%(4 名/10 名)2 年 57%(4 名/7 名)3 年 20%(1/5 名)中学校全体では、達成率 41%(9/22 名)
- ◇左のグラフでは県平均冊数を上回っているが、生徒個人で考えると県目標を上回っている生徒が多いとは言えない。今後は、これまで以上に読書活動の取組の意識を高め心に残る本を1 冊でも多く読ませる方策を考える必要がある。

読書目標	小1,2	小3	小4	小5,6	中学生
県の目標冊数	110	110	110	110	40
伊豆味校	120	100	80	80	40
月のめやす	11	10	8	8	4

目標を持ち生き生きと学ぶ



児童会による中体連大会の激励会 6,1



児童会によるこいのぼり集会 5月



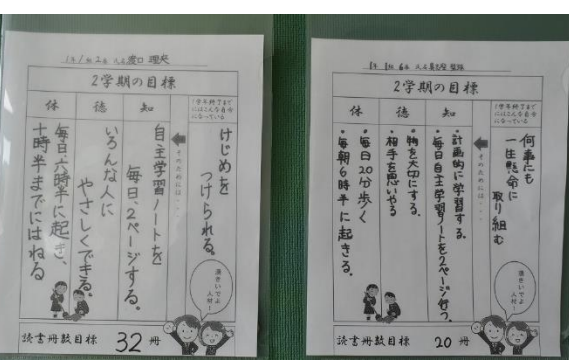
生徒総会 5,28



生徒会主催の新入生歓迎会 5,7



生徒会執行部による運動会練習前集会 5,20



上：個人目標を机上に貼り意識付け
右：中1生徒の2学期の本気の目標

小学：夢実現に向けた取組「夢ファイル」、中学「実行力を高める具体的な目標設定(数値の記入)」

- 生徒会テーマ「進取果敢 Be a Challenger」を掲げ、この1年間生徒会を中心に全生徒で様々な活動に取り組み主体性のある生徒会活動を目指す。
- 新入生歓迎球技大会では、生徒会が中心となり歓迎レクを1年生から3年生までの縦割りチームを4チーム結成し行った。可能な限り1年生が活躍できるよう工夫を凝らし歓迎会を実施し、1年生が2,3年生と和気あいあいと活動することで親睦が深まった。
- 自治活動の育成に向け、運動会では生徒会執行部を中心に、テーマを掲げ短い言葉で行動目標を3つ設定した。集会で毎回テーマや行動目標を強く意識した声かけや振り返りを行い意識の高揚に努め、全員がそれを意識し練習や運動会を行うことができた。
- キャリア教育の一環として、お題目にならない児童生徒の目標設定の取組を実施している。「目標設定(数値)→試行→目標の見直しや修正、相談→評価」を行う。また、目標を全員が見える場所に掲示し意識の向上を図る。小学校では、同じく目的で「夢ファイル」の取組を行っている。
- ◇生徒が主体的に課題を見つけ解決していけるよう「気づき」のある生徒の育成に努める。
- ◇町の課題でもある「伝える力」の育成に向け、語彙力の向上や考える力、表現力の育成に努めることが求められる。

基本的生活習慣・たくましい生徒



上、下写真 生徒有志による朝のあいさつ運動 5, 8



5, 6 年体育であいさつの指導と練習 6, 14



体育朝会 朝のマラソン 10, 6



地区駅伝に向けての駅伝部の練習 10, 2



夏季中体連大会 準決勝 対名護中戦 6, 8



5, 6 位決定戦 対伊平屋中戦 6, 8

- 生徒有志による「朝のあいさつ運動」が4月後半から始まり、学校全体に広がる。学校を良くしたいとの思いがある。2学期も引き続き、日々粘り強くあいさつ運動に励んでいる。学校が活気づいたなどの地域からの声が聞かれ始めた。
- 文武両道や体力の向上を目指し部活動の活性化に取り組む。今年は、数年ぶりにバレーの男女単独チームとして大会に出場した。男子は地区3位に入り県大会出場権を獲得した。
- 学校行事の一環、体力の向上として、陸上や駅伝に取り組む。今年は陸上大会が中止、駅伝大会も1ヶ月という限られた期間での練習になった。中学部の生徒や全職員で一致団結して取り組む。
- 小学部も体力向上を目指し週一回の朝の5分間持久走の実施を10月より開始している。
- ほとんどの生徒が8時までに登校し、朝の活動（清掃活動等）に取り組んでいる。多くの児童生徒が怠けることなく朝の作業に励んでいる。
- ◇主体的に考え、自らの体を鍛えられるよう各部活動や体育の授業を通じ取り組んでいく。

信頼される学校づくり



運動会前のPTA作業終了後の集会 5,9



運動会前のPTA作業 5,9



体育館でのPTA総会 5,12



バレー部へ地域からの寄付の贈呈 4,26



図書活動費の寄贈 5,19

- 学校が生徒や保護者などに定期的に配布している各種お便りは、「学校便り」各学年の「学級通信」「図書館便り」「保健便り」の4種類のお便りである。学校の様子、特に子どもたちの活躍や成長をこれらの便りを発行することで伝え、理解していただきたいとの思いが込められている。
- 毎年数回、PTA作業を行い、地域、保護者、学校が一体となり子ども達の教育活動に励んでいる。作業を通し保護者や地域の方との親睦を図る場でもある。
- PTA総会は、例年は公民館で実施していたがコロナ禍のため、今年は体育館での総会となった。今年一年、新PTA組織体制で伊豆味校の教育活動に努めていく。
- バレーボール部へボール購入等のため、保護者が中心となり募金活動を実施し、多くの地域の方のご芳志をいただいた。また、図書活動費としてのご寄付があった。地域の方々の期待に応えるべく、その活動費用を活かし、文武両道を目指し教育活動に励んでいく。
- 信頼される学校づくりの一環として、地域行事への参加と活用、PTA活動の工夫、学校の説明責任として時宜を得た学校説明、授業参観などを実施していく。
- ◇更なる小中連携の推進を目指し、学校組織体制の工夫改善を図りながら幼小中一貫した教育体制の確立が求められる。

特色ある取組



伝統の全幼児・児童・生徒・職員による朝の清掃活動 5,14



全幼児・児童・生徒による運動会練習 5,18

全幼児・児童・生徒による運動会 5,23



中学生による「気づき」の取組 6,15



全児童・生徒・職員による美化作業 4,21

○朝の清掃活動は数十年にわたる伝統的な取組である。全幼児・児童・生徒・職員が8時から10分間校庭からお宮、校門周辺道路など広範囲にわたり清掃を実施している。

○運動会は幼小中学校ならではの取組で、10学年の子ども達が一緒に演技や競争を行う。その姿は微笑ましく先輩が後輩を導き、思いやりや先輩を敬う心が醸成される。

○毎週水曜日は全校を上げての美化活動日である。花壇や校庭の美化活動に勤しみ校内美化に努めている。

○生徒の伝える力の育成の一環として「気づき」の発表の取組を実施している。「気づき、考え、行動そして成長」できる生徒を目指す。

健康面のようす（体位の状況）

1. 本校と沖縄県・全国の身体発育状況の比較

【沖縄県平均値以上 全国平均値以上 沖縄は R1 年値/全国は R2 年値 /は在籍なし】

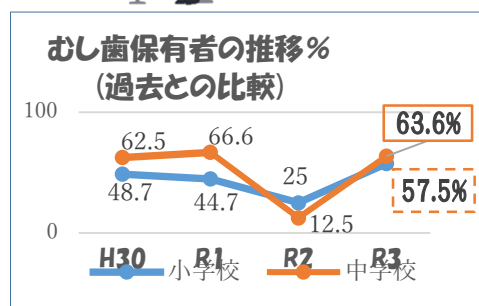
		男 子							女 子						中学校	男 子			女 子		
		1年	2年	3年	4年	5年	6年		1年	2年	3年	4年	5年	6年		学年	1年	2年	3年	1年	2年
	(人数)	1	7	2	5	2	3		0	3	4	2	5	0	(人数)	3	5	3	6	2	2
身長	本校	113.6	122.4	128.9	127.4	134.9	144.4	本校		118	124	137	143		本校	156.9	162.1	163.6	152.5	149.4	152.9
	沖縄	115.6	121.9	126.8	132.8	138.5	144	沖縄	114.8	120.8	126.9	133.1	140.8	146.6	沖縄	152.3	159.7	164.2	151.2	153.5	155.1
	全国	117.8	123.5	128.9	134.4	139.9	147.3	全国	116.7	122.7	128.2	133.3	141.5	148.3	全国	153.9	160.6	166.3	152.4	155.2	156.9
体重	本校	20.2	25.3	26.2	26.1	31.3	36.9	本校		20.5	25.5	33	35.3		本校	47.2	50.4	55.4	43.6	42	51.9
	沖縄	21.1	24.4	26.7	30.6	34.7	38	沖縄	21	23.4	26.9	30.5	35.3	39.8	沖縄	45.1	49.7	54	44.6	47.6	49.4
	全国	21.8	25.2	28.2	32.4	36.8	40.2	全国	21.3	24.2	26.7	30.3	34.5	41.5	全国	45.5	50	55.1	44.5	47.8	50.2

【肥満痩身傾向の状況：肥満度より】 * 小学校→全児童が標準体位 * 中学校→軽度肥満 2 名(男子 1 名、女子 1 名) 軽度やせ 1 名(女子 1 名)
 【内科検診より：5 月実施】 特に病院受診の必要な児童生徒は見られなかった。



2. 歯科検診の結果(4 月実施)

	小学生 (32名中)	中学生 (22名中)	全体(54名)
むし歯なし	8	4	12(23%)
治療完了	6	4	10(19%)
むし歯がある人	19	14	33(61%)
歯垢あり(若干の付着)	17	8	25(47%)
歯ぐきの状態(要観察)	24	14	38(72%)



今年の結果より

小中とも、むし歯ありの児童生徒が急増している。また、歯肉・歯垢の要観察者も多い。コロナ禍の影響(マスク着用による意識の低下、受診控え、予約がとれない等)も考えられるが、ブラッシング指導(集団・個別)等の保健指導の充実を図り、習慣化に努めたい。また、治療においては保護者の理解と協力が不可欠である。継続的に保護者に対しても協力を呼びかけていきたい。

3. 本校の視力検査結果

小学校	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	視力1.0未満	中学校	1年	2年	3年	合計	視力1.0未満
A (1.0以上)	1	7	6	4	5	2	25	9人	A (1.0以上)	6	3	1	10	11人
B (0.9~0.7)	0	1	0	0	0	0	1	(26.4%)	B (0.9~0.7)	1	1	1	3	(52.3%)
C (0.6~0.3)	0	1	0	1	0	1	3		C (0.6~0.3)	2	2	1	5	
D (0.2以下)	0	1	0	2	2	0	5		D (0.2以下)	0	1	2	3	

※昨年より 0.1%未満の児童の割合は横ばいであるが、D(0.2 以下)の児童が 1 人から 5 人に増えている。現在 1 人受診済み。

4. 視力検査より保健室から見える児童生徒の実態

体調不良で来室する児童生徒の原因として、夜遅くまで動画視聴やゲームをしていて睡眠不足ということがみられる。また、猫背やストレートネックなどの心配する声や「頭痛がする」「肩がこる」「目が疲れた」など、子ども達の生活リズムや健康面に大きな影響を与えている事を実感している。

歯科衛生士さんによる

歯科保健指導(オンライン)の様子



学校評価（1学期の状況）

1学期 重点取組の評価まとめ									
4：とてもそう思う 3：そう思う 2：あまり思わない 1：全く思わない									
学 力 の 向 上									
項目	1	2	3	4	AV	成果(工夫した点など)			
1 授業改善・授業マネジメントの徹底（校内研修）に努める。→口頭振り返りの徹底・ICT活用推進	0	1	14	4	3.2	○ワークシートの改善、既習用語を活用した発表・振り返り学習が上るにつれ身につけている。(活用できる) ○互いの良さを伝える。気づかないことをピックアップし、「こんなことができる、すごいね」と伝える。 ○苦手なことをカバーする方法を伝え、練習させている(手書き→PC) ○役割を与え、できたことを評価する。 ○ワーキングツールの授業。 ○振り返りを意識した「めあて」を設定した。 ○英語ノート使用が苦手な生徒でも単語を書く練習が行いやすいようワークシートを工夫した。 ○毎時間、ペアやグループ活動を取り入れ、交流や話し合いの場面を作った。 ○本人が理解出来るように一人一人に適した対応を心がけた。 ○担任と連携を取りながら生徒理解に努めることができ			
2 個に応じた指導の工夫	0	1	13	5	3.2	○TT授業や休憩時間、早朝、放課後を活用した個別指導に取り組んだ。 ○タイマーの活用、帰りの会での「いいところ探し」の発表。 ○個に応じたふりかえりの仕方を工夫する必要がある。 ○まずは個の課題の把握に努めた。 ○学活で1単位、毎日のいい所探しも子どもたちの意見でとり入れた			
3 言語活動を重視した思考力・判断力・表現力を育成する場面、きき合い、伝え合う授業の工夫改善。授業における音読の推進（読解力の向上）	0	5	12	1	2.8	○学級文庫の設置ほか読書活動の充実(保護者とも共有) ○本の紹介をさせている。 ○教師が感じた「良さ」を伝えていく。 ○ふりかえり、ワークシートの記録。 ○自分が体験したことや生徒の心に響きそうなことを話している。 ○朝の読み聞かせなど、自分が学んだ技術を使って完結に訴えかけられるように話している。 ○生徒の好みや好きな本、リクエスト本を調べて購入した。 ○生徒ひとりひとりの良い点、がんばっている点を見つけ声かけを意識する。 ○子供達の良い所を見つけ自信につなげるよう心がけた。 ○制約のある中、工夫して行事等が行えたと思います。 ○全職員体制での朝の読書の徹底、雰囲気作り。 ○支援を要する生徒へ職員、関係機関と連携して対応している。 ○関連読書も読み聞かせ。○一人一人の活躍の場。 ○他人の考えを聞いて認める。 ○きまりや規則の大切さを意識させ続けている。 ○間違いができる授業の雰囲気作り。			
4 学級経営の充実 支持的風土のある学級づくりの推進（良いところ探し）	0	1	11	4	3.2	○学級文庫の設置ほか読書活動の充実(保護者とも共有) ○本の紹介をさせている。 ○教師が感じた「良さ」を伝えていく。 ○ふりかえり、ワークシートの記録。 ○自分が体験したことや生徒の心に響きそうなことを話している。 ○朝の読み聞かせなど、自分が学んだ技術を使って完結に訴えかけられるように話している。 ○生徒の好みや好きな本、リクエスト本を調べて購入した。 ○生徒ひとりひとりの良い点、がんばっている点を見つけ声かけを意識する。 ○子供達の良い所を見つけ自信につなげるよう心がけた。 ○制約のある中、工夫して行事等が行えたと思います。 ○全職員体制での朝の読書の徹底、雰囲気作り。 ○支援を要する生徒へ職員、関係機関と連携して対応している。 ○関連読書も読み聞かせ。○一人一人の活躍の場。 ○他人の考えを聞いて認める。 ○きまりや規則の大切さを意識させ続けている。 ○間違いができる授業の雰囲気作り。			
5 生徒指導の三機能を意識した授業の構築や教育相談の充実を図り、生徒理解に努める。※三機能とは、自己存在感、共感的人間関係、自己決定	0	1	13	4	3.2	○学級文庫の設置ほか読書活動の充実(保護者とも共有) ○本の紹介をさせている。 ○教師が感じた「良さ」を伝えていく。 ○ふりかえり、ワークシートの記録。 ○自分が体験したことや生徒の心に響きそうなことを話している。 ○朝の読み聞かせなど、自分が学んだ技術を使って完結に訴えかけられるように話している。 ○生徒の好みや好きな本、リクエスト本を調べて購入した。 ○生徒ひとりひとりの良い点、がんばっている点を見つけ声かけを意識する。 ○子供達の良い所を見つけ自信につなげるよう心がけた。 ○制約のある中、工夫して行事等が行えたと思います。 ○全職員体制での朝の読書の徹底、雰囲気作り。 ○支援を要する生徒へ職員、関係機関と連携して対応している。 ○関連読書も読み聞かせ。○一人一人の活躍の場。 ○他人の考えを聞いて認める。 ○きまりや規則の大切さを意識させ続けている。 ○間違いができる授業の雰囲気作り。			
豊かな心、思考力を育む読書活動の推進						○学級文庫の設置ほか読書活動の充実(保護者とも共有) ○本の紹介をさせている。 ○教師が感じた「良さ」を伝えていく。 ○ふりかえり、ワークシートの記録。 ○自分が体験したことや生徒の心に響きそうなことを話している。 ○朝の読み聞かせなど、自分が学んだ技術を使って完結に訴えかけられるように話している。 ○生徒の好みや好きな本、リクエスト本を調べて購入した。 ○生徒ひとりひとりの良い点、がんばっている点を見つけ声かけを意識する。 ○子供達の良い所を見つけ自信につなげるよう心がけた。 ○制約のある中、工夫して行事等が行えたと思います。 ○全職員体制での朝の読書の徹底、雰囲気作り。 ○支援を要する生徒へ職員、関係機関と連携して対応している。 ○関連読書も読み聞かせ。○一人一人の活躍の場。 ○他人の考えを聞いて認める。 ○きまりや規則の大切さを意識させ続けている。 ○間違いができる授業の雰囲気作り。			
1 読書活動を推進し思考力、読解力の向上を図る。	0	2	14	3	3.1	○学級文庫の設置ほか読書活動の充実(保護者とも共有) ○本の紹介をさせている。 ○教師が感じた「良さ」を伝えていく。 ○ふりかえり、ワークシートの記録。 ○自分が体験したことや生徒の心に響きそうなことを話している。 ○朝の読み聞かせなど、自分が学んだ技術を使って完結に訴えかけられるように話している。 ○生徒の好みや好きな本、リクエスト本を調べて購入した。 ○生徒ひとりひとりの良い点、がんばっている点を見つけ声かけを意識する。 ○子供達の良い所を見つけ自信につなげるよう心がけた。 ○制約のある中、工夫して行事等が行えたと思います。 ○全職員体制での朝の読書の徹底、雰囲気作り。 ○支援を要する生徒へ職員、関係機関と連携して対応している。 ○関連読書も読み聞かせ。○一人一人の活躍の場。 ○他人の考えを聞いて認める。 ○きまりや規則の大切さを意識させ続けている。 ○間違いができる授業の雰囲気作り。			
2 自己肯定感を高める指導の工夫を図る。	0	1	15	4	3.2	○学級文庫の設置ほか読書活動の充実(保護者とも共有) ○本の紹介をさせている。 ○教師が感じた「良さ」を伝えていく。 ○ふりかえり、ワークシートの記録。 ○自分が体験したことや生徒の心に響きそうなことを話している。 ○朝の読み聞かせなど、自分が学んだ技術を使って完結に訴えかけられるように話している。 ○生徒の好みや好きな本、リクエスト本を調べて購入した。 ○生徒ひとりひとりの良い点、がんばっている点を見つけ声かけを意識する。 ○子供達の良い所を見つけ自信につなげるよう心がけた。 ○制約のある中、工夫して行事等が行えたと思います。 ○全職員体制での朝の読書の徹底、雰囲気作り。 ○支援を要する生徒へ職員、関係機関と連携して対応している。 ○関連読書も読み聞かせ。○一人一人の活躍の場。 ○他人の考えを聞いて認める。 ○きまりや規則の大切さを意識させ続けている。 ○間違いができる授業の雰囲気作り。			
3 教育支援体制の構築を図る。	0	1	14	2	3.1	○学級文庫の設置ほか読書活動の充実(保護者とも共有) ○本の紹介をさせている。 ○教師が感じた「良さ」を伝えていく。 ○ふりかえり、ワークシートの記録。 ○自分が体験したことや生徒の心に響きそうなことを話している。 ○朝の読み聞かせなど、自分が学んだ技術を使って完結に訴えかけられるように話している。 ○生徒の好みや好きな本、リクエスト本を調べて購入した。 ○生徒ひとりひとりの良い点、がんばっている点を見つけ声かけを意識する。 ○子供達の良い所を見つけ自信につなげるよう心がけた。 ○制約のある中、工夫して行事等が行えたと思います。 ○全職員体制での朝の読書の徹底、雰囲気作り。 ○支援を要する生徒へ職員、関係機関と連携して対応している。 ○関連読書も読み聞かせ。○一人一人の活躍の場。 ○他人の考えを聞いて認める。 ○きまりや規則の大切さを意識させ続けている。 ○間違いができる授業の雰囲気作り。			
4 行事等の体験学習を意義あるものにするための工夫改善を図り、豊かな心を育成する。	0	1	15	2	3.1	○学級文庫の設置ほか読書活動の充実(保護者とも共有) ○本の紹介をさせている。 ○教師が感じた「良さ」を伝えていく。 ○ふりかえり、ワークシートの記録。 ○自分が体験したことや生徒の心に響きそうなことを話している。 ○朝の読み聞かせなど、自分が学んだ技術を使って完結に訴えかけられるように話している。 ○生徒の好みや好きな本、リクエスト本を調べて購入した。 ○生徒ひとりひとりの良い点、がんばっている点を見つけ声かけを意識する。 ○子供達の良い所を見つけ自信につなげるよう心がけた。 ○制約のある中、工夫して行事等が行えたと思います。 ○全職員体制での朝の読書の徹底、雰囲気作り。 ○支援を要する生徒へ職員、関係機関と連携して対応している。 ○関連読書も読み聞かせ。○一人一人の活躍の場。 ○他人の考えを聞いて認める。 ○きまりや規則の大切さを意識させ続けている。 ○間違いができる授業の雰囲気作り。			
5 道徳科の時間を要として、学校の教育活動全体を通じて道徳教育の充実を図る。	0	3	9	3	3.0	○学級文庫の設置ほか読書活動の充実(保護者とも共有) ○本の紹介をさせている。 ○教師が感じた「良さ」を伝えていく。 ○ふりかえり、ワークシートの記録。 ○自分が体験したことや生徒の心に響きそうなことを話している。 ○朝の読み聞かせなど、自分が学んだ技術を使って完結に訴えかけられるように話している。 ○生徒の好みや好きな本、リクエスト本を調べて購入した。 ○生徒ひとりひとりの良い点、がんばっている点を見つけ声かけを意識する。 ○子供達の良い所を見つけ自信につなげるよう心がけた。 ○制約のある中、工夫して行事等が行えたと思います。 ○全職員体制での朝の読書の徹底、雰囲気作り。 ○支援を要する生徒へ職員、関係機関と連携して対応している。 ○関連読書も読み聞かせ。○一人一人の活躍の場。 ○他人の考えを聞いて認める。 ○きまりや規則の大切さを意識させ続けている。 ○間違いができる授業の雰囲気作り。			

	項目	1	2	3	4	AV	成果(工夫した点など)	改善点(2以下)や意見
目標を持ち生き生きと学ぶ	1 「伝える力」の推進に努める。	0	2	14	2	30	○振り返りの実施。 ○人生の先輩として生徒がこれから出会うかもしれない世界の話をしている。 ○生徒の話合いの場面を多く持ち、主体的に活動できるようにする。 ○相手に伝える表現の仕方を促した。 ○生徒代表あいさつなど添削、指導し、原稿を見ないで発表に取り組んだ。 ○振り返り以外にも発表させたり、学び合ったりさせる。 ○交流の場の設定。	●細かな確認が不足している。 ●職業を意識させる取組をもっと行う。 ●本人の仕事内容を意識させる。 ●自己表現の場を設定する。パフォーマン大会などがあったりも面白い。 ●講話等、生徒の刺激になるようなことを聞かせたいです。 ●キャリアパスポートの活用と連携して意図的な取組が必要。 ●個々の具体的な目標設定。 ●もう少し学習図書委員会として、自分たちで考えてできる取組をさせたい。まだ教師の指示だけで動いているため、主体性とは言えない。
	2 目標をもつ場・振り返る場の設定に努める。(目標の意識化)	0	1	13	3	31	○歯科衛生士による講話を実施し、歯や口の健康に関して、知識を深めることができたとあります。 ○あいさつ(立ち止まり)ができる児童生徒が、少しずつではあるが増えている。 ○朝の読書が習慣として身についている。 ○教師も「明るいあいさつ」を率先して行っている。 ○委員会活動でも意識して取り組んでいる。(基本的な生活習慣)	●生活リズム確立のため家庭への連絡を行い生活リズムチェックを行っているが、まだ遅刻欠席が多い。 ●もう少し早く登校するために中学生は2学期よりあさぽを取り入れたい(7:00～7:20) ●声ももう少し大きいと言いたい。 ●朝活の時間に間に合わない生徒がいる。登校時間が遅くなっている。(遅刻はなし) ●元気がない。 ●基本的生活習慣については、もっと保護者と連携していきたい。(スマホやiPadを使って動画視聴の時間が長い) ●「朝のあいさつ運動」についての話がうまくまとまっていなかった。12学期から主体的な朝の活動」を展開していきたい。
	3 キャリア教育を推進し、夢や希望を育む取組を行う。	0	5	9	1	27	○朝の早い出勤を意識し、活動推進に取り組んだ。 ○うさぎの世話をがんばっている。 ○あいさつの大切さを常に意識させている。やり直しもやっている。	●PTA活動への参加が少ない。 ●PTA活動はコロナが落ち着くまではしようがないと思います。 ●全体朝会(表彰朝会)の計画的な実施。 ●管理職への連絡不足の取組があった。 ●定期的な便りの発行。
	4 主体性のある児童会生徒会活動の活性化を図る。	0	2	13	0	29	○保護者との連携や連絡は多くとっている。 ○保護者との連携がとれている。 ○企画・運営委員会の工夫で、小中で取り組む内容や児童生徒の様子など共通確認ができるようになった。	
	5 健康・安全な生活態度を育成する。(歯の健康)	0	5	11	1	28		
基本的生活習慣の確立とたくましい児童の育成	1 主体的な朝の活動の推進に努める。	0	5	7	5	30		
	2 積極的な「明るいあいさつ」の推進を図る。	0	5	10	1	28		
	3 基本的生活習慣の確立を図る。	0	6	7	3	28		
	4 部活動の活性化や児童生徒の運動能力の向上を図り、体力の増進に努める。	0	2	14	0	29		
	5 健康・安全な生活態度を育成する。(歯の健康)	0	5	11	1	28		
	6 PTA活動の工夫	0	3	13	0	28		
信頼される学校づくり	1 保護者・地域との情報連携(各種便りの定期的発行)	0	1	11	5	32		
	2 学校組織体制の工夫と推進(報道相の徹底)	0	0	17	1	31		
	3 小中連携の推進	0	0	12	4	33		
	4 説明責任(学校説明、授業参観等)	0	0	11	2	32		
	5 授業力の向上	0	2	12	2	30		
	6 PTA活動の工夫	0	3	13	0	28		

令和3年度 学校評価および重点取組アンケート (まとめ)														
学校評価アンケート(主な成果)							重点取組アンケートの結果から							
領域	質問事項	児童	生徒	保小	保中	職員	領域	質問事項	児童	生徒	保小	保中	職員	
学 習 指 導	学校が楽しい	3.9	3.0	3.7	3.4	3.1	重 点 項 目	口頭での振り返り	3.6	3.6			3.1	
	教育目標・方針			3.6	3.7	3.2		自ら考える場面の設定	3.7	3.8			3.2	
	授業はわかりやすい	3.9	3.4	3.6	3.4	3.2		進んで自分の考えを発表	3.7	3.2			3.3	
	学習への意欲	3.8	3.1	3.1	3.0	3.3		支持的風土	3.8	3.7			3.5	
	心の成長(道徳)	3.7	3.3			3.0		自己肯定感	3.7	3.2			3.2	
学 校 生 活	進路・キャリア	3.7	3.5	3.3	3.3	3.0	学 校 評 価 ア ン ケ ー ト (主 な 課 題)	他者を認める	3.8	3.6	3.8	3.8	3.6	
	適切な評価	3.8	3.8	3.6	3.7	3.1		進んで読書	3.9	3.5	-		3.2	
学 校 評 価 ア ン ケ ー ト (主 な 課 題)	教職員間の連携	3.9	3.5	3.6	3.5	3.1	主 な 課 題	言語活動の重視、伝え合う授業の工夫改善。					2.8	
	よりよい学校づくり	3.8	3.7	3.7	3.7	3.1		キャリア教育を推進し、夢や希望を育む取組を行う。					2.7	
	悩みや問題に適切に対応	3.8	3.5	3.6	3.7	3.2		主体的な「明るいあいさつ」の推進を図る。					2.9	
	人間関係	3.8	3.7	3.6	3.5	3.4		基本的な生活習慣の確立を図る。					2.8	
	学校のきまりを守る	3.7	3.7	3.2	3.4	3.4		部活動の活性化や運動能力の向上、体力の増進に努める。					2.9	
	すずんであいさつ	3.7	3.1	3.2	3.3	3.6		健康・安全な生活態度を育成する。(歯の健康)					2.8	
	整理整頓・清掃	3.8	3.2	3.7	3.4	3.6		PTA活動の工夫。					2.8	
	行事・児童会生徒会活動	3.9	3.6	3.7	3.7	3.3		主体的な自治活動						
	行事を通しての成長	3.8	3.5	3.8	3.7	3.1		★伝え合う授業 (めあてや気づきの発表)						
	施設・備品を大切に	3.9	3.7	3.4	3.5	3.5		★キャリア教育 (夢や希望を育む取組)						
学 校 評 価 ア ン ケ ー ト (主 な 課 題)	安心・危機管理	3.8	3.4	3.3	3.5	3.6	主 体 的 な 課 題							
	行事・授業参観・PTA活動	3.9	3.8	3.4	3.5	3.4		★伝え合う授業 (めあてや気づきの発表)						
	学級通信・情報発信	3.7	3.5	3.6	3.6			★明るいあいさつ						

考察【学校評価アンケートの結果から】 児童生徒、教職員、保護者の学校評価は昨年同様概ね良好である。しかし、一歩掘り下げて質問した重点取組では同じ内容でも評価が下がっている。例えば、「あいさつ」や「キャリア教育」などである。重点取組の結果と乖離している。これは、**全体的に何となく出来ていると感じても具体的な取組で考えと物足りなさの現れ**である。そもそも重点取組は、1学期当初に学校課題を調査した結果に基づいたものでもある。**全職員がこれまで以上に何を具体的に取組み、どう向上させていくかという意識の高揚が図られた結果**でもある。

重点取組の成果（○）と課題●)についての考察を以下に記す。

○「個に応じた指導」「支持的風土の学級」「生徒理解」などにおいては、良好な結果(3.2)となった。これは、**各職員の意識した取り組みをはじめ運営委員会の改善や教育支援委員会の設置、職員会議の提案事項の報告相談を徹底**して取り組んだ影響だと考えられる。

○読書活動は評価が3.1ではあるが、全職員体制で朝の読書に師弟同行で励んでいる。**読書強化期間の徹底や本紹介、教職員文庫の設置、読み聞かせ(生徒、職員)などの取組、さらに読書環境の雰囲気が高まりつつある。**

○**校内研修**(3.2)では、研究テーマに迫れるよう重点取組として「**口頭振り返り**」「**ICTの有効活用**」にしぼり、研究主任を中心に**定例の校内研修推進委員会(月1)で取組状況を報告し共通理解をはかりながら共通実践(組織的取組)**することができたことが大きいと思われる。今後は、**口頭による振り返りの時間を確保**することや、本時における学びや気づきを促し、次へとつなげるための時間をしっかりと確保する。また、学びを広げるための交流場面設定や、発問について工夫を行う。

○**小中連携**(3.2)は、**運営委員会の参加人員を拡大し教育活動の諸取組のねらい等の確認や意義を高める工夫**などの小中職員の代表で確認を行い、**職員ミーティングでの再確認などで連携意識が高まった。校務分掌など小中一人ずつ配置されているが、その中から主を設け連携をとりやすくしたり、委員会活動では小中合同で実施するなどの工夫改善**が必要。

●生徒から「家庭学習」「部活動」「運動」「運動」について、保護者からは「家庭学習・宿題(いい)」「生活リズム(中)」において低い数値(共に2.9)となっている。職員の評価からも、「学習が身についている」「総合的な学習の時間」について、普段の学習に影響が出ていることが数値(2.9)から伺える。これは、**コロナ禍の影響で、他校と同様に学習面・運動面・生活面において家庭での取組が増えたことが影響している**と思われる。

●**学級の平均冊数は県を上回り、読書活動全体は頑張っている**という「感じ」はあるが、**個々の貸出冊数の目標達成できていない者は小学校で66%、中学校で41%と決して楽観できる状況ではない**。学級の平均冊数と個人の目標達成度との乖離が大きいためである。今後は、**司書と図書館担当が連携協力して、掲示物や本の展示、読書傾向の分析など工夫し読書へのモチベーションが上がるよう工夫改善し読書習慣の確立を図る必要がある**。また、「読解力の向上」というねらいを念頭に置きつつ、読書の振り返りも活用しながら、インプットとアウトプットのバランスの取れた取組を行う。学年が上がるとにしいが、**ページ数の多い本やじっくり読む生徒への配慮**も検討

●**児童生徒会活動に課題**(2.9)がある。**委員会活動においても教師の指示待ちが多いのではない**か。自ら考える自治活動になっているか。何のためにやるのか。どうすれば良くなるのか。自分事として捉えて活動しているか。**委員会の強化期間には徹底した取組が求められる**。そのためにも少人数の子どもたちでもやれるよう、取組を見直し焦点化していくことが必要だ。

●キャリア教育(2.7)について、**コロナ禍のため計画通りにはいかず、悩んでいるところ**だ。キャリア教育は校外などの体験活動も重要だが、**要は自己調整力を付けること**だ。具体的には、今取り組んでいる「夢・キャリア」や「自己実現プロジェクト(目標設定)」の徹底した取組を行うことである。そして、意義ある行事の取組の推進などである。そのためには、自ら何をするか目標を立てそれをどう実行していくか。そしてどう課題を見つけ、改善していくのが大切だ。具体的な方法を指導していくことである。

●**体力の増進**(2.9)でやや厳しい。対価として**部活動では走る活動を可能な限り取り入れ、陸上や駅伝の基礎を築く**などの取組、**小学校では最近取り組み始めた「おもしろマラソン(仮名)」の推進**など。また日頃、車での登校が目立っている**ので徒歩登校の奨励**を検討する。

●生活リズムの最適化を図る。早寝・早起き・朝ごはんやスマホ・タブレット利用についてのルールを家庭と連携しながら整えていくことが重要である。(睡眠時間の確保など)